

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016 年度在宅医療助成（前期）指定公募

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための

多職種研修会への助成」完了報告書

## 小児訪問看護及び介護事業推進のための 研修会開催

西村あをい

元：江東区医師会訪問看護ステーション

現：東京情報大学看護学部 小児看護学

2017 年 5 月 8 日提出

## 1. 研修概要

|      |   |
|------|---|
| 第1回  | 平成28年9月16日（金）18時30分～20時（江東区医師会館）  |
| テーマ  | 小児の訪問看護と訪問介護の連携   |
| 講師   | 西村あをい（江東区医師会訪問看護ステーション 小児訪問看護コーディネーター）<br>高館麻貴（訪問介護・障害者（児）支援事業所「カレッジケア」 所長）<br>永瀬美紀（江東区子ども発達センター 児童相談支援員）   |
| 講演内容 | 江東区医師会訪問看護ステーションの看護師とカレッジケアのヘルパーが協力して実施している人工呼吸器装着児の在宅ケアの実際を、Yちゃんの事例を通じてそれぞれの役割に基づき紹介した。また、訪問看護師とヘルパーの連携を可能にした経緯やサービス内容を、Yちゃんの担当相談支援員が、社会資源の活用も含めて報告した。さらに会場からの質問に応える形で、相談支援専門員制度と役割について解説した。 |
| 参加者  | 52名（看護師15、保健師5、助産師1、医師1、介護職12、リハビリ職4、相談支援員6、その他6）   |

|      |   |
|------|---|
| 第2回  | 平成28年10月6日（木）18時30分～20時（江東区医師会館）                |
| テーマ  | 小児のスキントラブルとスキンケア                                |
| 講師   | 岡田善胤（岡田皮膚科クリニック 院長）                             |
| 講演内容 | 小児期に起こりやすいスキントラブルの種類と治療、および日常のケアを皮膚科医師が講演した。    |
| 参加者  | 参加者：30名（看護師18、保健師1、医師1、介護職3、リハビリ職4、相談支援員2、その他1） |

|      |  |
|------|--|
| 第3回  | 平成28年11月18日（金）18時30分～20時（江東区医師会館）  |
| テーマ  | 小児の訪問リハビリ  |
| 講師   | 及川由紀（江東区医師会訪問看護ステーション OT）<br>加瀬奏庸（東京リハビリ訪問看護ステーション 小児 OT）<br>梶川賢太（東京リハビリ訪問看護ステーション PT）<br>橋本 愛（東京リハビリ訪問看護ステーション 小児 ST）   |
| 講演内容 | リハビリスタッフが実施している小児の訪問リハビリの実際を、職種別に事例を用いて紹介した。まずは加瀬氏が小児分野におけるPT、OT、STの役割について説明した後、梶川氏が関わる2歳・二分脊椎児の事例を、橋本氏はSTとして関わる摂食・嚥下訓練の実施状況を6歳と9歳の2事例から紹介した。OTの及川氏は0歳から2年間関わっている重症心身障害児のリハビリ計画と介入後の児の変化を報告した。 |

|     |  |
|-----|--|
| 参加者 | 72名（看護師30、保健師2、医師2、介護職7、リハビリ職19、相談支援員6、その他8） |
|-----|--|

|      |  |
|------|--|
| 第4回  | 平成29年1月19日（木）18時30分～20時（江東区医師会館）   |
| テーマ  | 在宅療養児（者）のレスパイトケア<br>～重症心身障害児・者の短期入所の実態～  |
| 講師   | 岩崎裕治（東京都立東部療育センター 副院長）<br>高橋良枝（東京都立東部療育センター 看護師長）  |
| 講演内容 | 岩崎医師は、東京都立東部療育センターの施設概要、レスパイト受け入れの実態と利用状況に関する報告を行った。また「重症児の一般病院に小児科における短期入所の実態と課題」（日本小児科学学会誌118(12)、2014年）など、過去に行われた調査研究の紹介も含めて、療育センターが抱えるレスパイトケアの課題が報告された。高橋師長は、東部療育センターにおける障害児（者）看護やレスパイトケアの実際を通じ、障害児（者）看護の目標と役割を報告した。 |
| 参加者  | 57名（看護師29、助産師1、保健師1、医師2、介護職3、リハビリ職5、相談支援員4、その他12）  |

|      |  |
|------|--|
| 第5回  | 平成29年2月24日（金）18時30分～20時（江東区医師会館）   |
| テーマ  | 在宅療養児の家族ケア～家族の声を聴こう～   |
| 講師   | 在宅療養児のご家族A様（江東区医師会訪問看護ステーション 利用者）<br>在宅療養児のご家族B様（江東区医師会訪問看護ステーション 利用者）<br>土屋由利子（東京都東部訪問看護事業部 在宅療養支援員・看護師）  |
| 講演内容 | 実際に在宅療養しているAちゃん（1歳児・人工呼吸器）の母親とBちゃん（4歳児・人工呼吸器、0歳・酸素療法）の父親から以下の内容に関する話を伺った。<br>① 誕生から現在までの経過、②退院後の生活（スケジュール）、③子どもの病気がわかった時の気持ちと日常生活に関する考え方の変化、④家族関係の変化、⑤在宅療養児の家族が抱える課題。また、東京都東部訪問看護事業部の訪問看護師である土屋氏からは、東部訪問看護事業部の看護師の役割や、重症心身障害児の家族ケアに関する考え方が報告された。 |
| 参加者  | 52名（看護師25、保健師2、医師3、介護職4、リハビリ職8、相談支援員5、その他5）  |

## 2. 参加者からのアンケート結果

参加者の属性、1) 参加理由、2) 研修内容の満足度とその理由、3) 研修内容活用の可能性について、毎回アンケートへの協力を求めた。

### 【第1回】小児訪問看護と訪問介護の連携

## 1) 参加理由

- ・テーマに関心がある
- ・訪問看護と介護の連携の実際を知りたい
- ・今後、小児の訪問看護や訪問介護に取り組みたい
- ・お知らせを見た、誘われた

## 2) 研修内容の満足度とその理由

大変良い 59.7%、良い 38.1%、普通 0.2%、あまり良くない 0、改善の余地あり 0

—理由—

<実例の紹介なのでわかりやすく、連携の重要性や方法、課題などが理解できた>

- ・実際のケースを用いてそれぞれの立場での発表だったので、わかりやすく参考になった
- ・看護職・介護職・行政がそれぞれの立場でどのように支援、連携するのか理解できた
- ・医療と介護の連携がとても大事だと再認識できた
- ・多職種の悩みや思いを聞くことが出来た
- ・連携と言う点にテーマを絞り、どのようにすそ野を広げていくのか意見交換がなされ、今後の見通しが持てた
- ・これからの社会に必要なモデルを示して頂いた

<取り組みたい、もっと知りたくなった>

- ・実践例を知ることで、「やれば出来る」という気持ちを強く持つことができた
- ・知ろうとしなければ興味もわかないが、もっと知りたいと思えるようになった
- ・行政の動きや他事業者との連携方法を知ることが出来た
- ・制度的なものをもっと聞きたかった

## 3) 研修内容活用の可能性について

### (1) 看護師として

- ・小児訪問看護に取り組んでいきたい
- ・今後、介護職や多職種との連携を取り、それぞれの役割を明確にしながら関わりたい
- ・多職種とどのように連携するのか、明確になった
- ・地域や人と繋がりが大切なので、良い繋がりが出来るように地域に添い遂げたい
- ・現場でヘルパーさんと連携する際、ヘルパーさんの考えや疑問等話し合えるように環境作りに努めていきたい
- ・安全にケアを行えるようなポイントを皆で共有したい
- ・高齢者と同じチームで小児を訪問看護することを大事にしたい
- ・GCUを退院する親や家族への情報提供プランの参考になった

### (2) 保健師として

- ・多職種が関わる連携の参考になる、課題を職場に持ち帰りたい
- ・在宅へ移行していく時の支援の流れがとても勉強になった。在宅移行するケースでは非参考にしたい

### (3) 介護職として

- ・この先、小児在宅医療の支援や医療ケアに関わっていききたい。
- ・安心安全に自分の出来る心からのケアを進めていききたい
- ・小児のケアや制度に関心を持ち、勉強していききたい
- ・小児の訪問現場に看護師がいてくれると安心してケアに当たれるが、ヘルパーとしてもスキルアップ出来るように勉強したい

### (4) その他の職種として

- ・相談支援のあり方や立ち位置をもう一度自分の中で振り返りたい（相談支援員）
- ・連携を取ることでより良い教育の場（特別支援学校）提供への安定が図れると思う（特別支援学校教員）
- ・学校としても、保護者の在宅での訪問看護や介護の利用について情報を持ち、連携や協力を行っていききたい（特別支援学校教員）

## 【第2回】小児のスキントラブルとスキンケア

### 1) 参加理由

<小児（及び高齢者）のスキンケアに関する知識の向上>

- ・小児の皮膚トラブルやスキンケアの知識の向上
- ・小児の皮膚トラブルは良く遭遇するが、いつもどうすれば良いかわからず受診を勧めるだけであったので
- ・皮膚疾患について家族から相談が多いため
- ・小児に限らず、現場で皮膚炎の対応の判断に困ることがあった

<小児のケア全般について学びたい>

- ・小児の訪問看護・介護に力を入れたい
- ・小児看護の臨床経験がなく基本的知識を習得したい
- ・小児の様々なケアについてもっと勉強したい

### 2) 研修会の満足度とその理由

|   |
|---|
| 大変良い 59.3%、良い 33.3%、普通 0、あまり良くない 0、改善の余地あり 0.3% |
|---|

—理由—

- ・具体的なケースの説明や映像の紹介等から理解しやすかった
- ・メディアからの情報と実際の医療情報の違いを理解できた
- ・皮膚病の症例と対処方法について学べた
- ・岡田先生に参加者からの様々な質問に答えてもらい解決方法がわかった
- ・保育園児の日々のケアや保護者への指導の参考になる

### 3) 研修内容活用の可能性について

- ・スキンケア、爪切り、テープの活用方法
- ・すり傷への対応、傷パワーパッドの正しい使用方法

- ・ステロイド剤に関する家族への説明方法
- ・家族からの質問に役立つ＝エビデンスの説明
- ・家族への正しいアドバイスができる

### 【第3回】小児の訪問リハビリ

#### 1) 参加理由

<小児の訪問事例（リハビリ、看護、介護）の経験が少ないので勉強したい>

- ・小児のリハビリに強くなりたい、興味がある、実際を知りたい
- ・小児の在宅リハの経験や知識がない、あるいはあるいは乏しいので学びたい
- ・訪問リハの現状やニーズについて知りたい
- ・子どもの発達や生活を支える視点でのリハビリについて知りたい
- ・病院勤務から訪問リハビリに転職し、小児にかかわる機会ができたため
- ・重症心身障害児には関わらないのでケース理解を深めたい

<小児訪問事例を受け入れているが、知識や技術を増やして強化したい>

- ・小児の訪問リハビリを行う中で、変形や嚥下などに対するアプローチを学びたい
- ・在宅における訪問リハビリの内容や方法に悩んでいる
- ・小児分野でのリハビリに対する研修が少ないため参加した
- ・今後、小児の訪問リハを拡大していく予定なので様々な情報収集をしたい
- ・OTとして小児の訪問に関わっているが、他職種やPT、STのことが勉強できると思った
- ・ヘルパーとして医療的ケアの必要な子どもの訪問介護に関わっているが、どのようなリハビリが行われているのか知りたい

<江東区の小児在宅医療の現状を知りたい>

- ・今後江東区内で訪問看護ステーションを立ち上げる予定があり、区の状況を知りたい
- ・小児在宅医療の現状を知り、区民の方に説明していきたい
- ・小児在宅医療に関心があり知識を増やしたい

#### 2) 研修内容の満足度とその理由

|   |
|---|
| 大変良い 65.4%、良い 21.2%、普通 0.4%、あまり良くない 0、改善の余地あり 0 |
|---|

|         |
|---------|
| 無回答 13% |
|---------|

—理由—

<症例中心の講演でわかりやすかった>

- ・実際の取り組みをわかりやすく具体的に講義されたのでイメージしやすかった

<リハビリ職の実践内容（＝特徴）が理解できた>

- ・PT、PT、STそれぞれの職種の違いや特徴がよくわかった
- ・STの話聞くのは初めてなので勉強になった

<リハビリの実地研修があると良い、実践方法をもっと知りたい>

- ・アプローチのポイントを知り、具体的な内容を知ることが出来た

- ・実地研修があると良かった
- ・ポジショニングなど実技を学びたかった
- ・具体的なリハビリの内容について聞きたい

### 3) 研修内容活用の可能性について

<リハビリ職の話を聞くことで仕事の視野が広がる>

#### ①家族へ説明できる

これから小児の依頼を受けるに当たり、今までより少し自信がついた  
障害児を持つ家族にリハビリの良さを伝えていきたい

#### ②職種間の連携に生かすことができる

- ・OT、PT、STの方との連携がもっと必要だと思った
- ・ナースサイドで出来たり気づいたりすることを他職種への依頼につなげていきたい
- ・リハビリの方と同じ目標で進めるようにもっと連携を取ってケアに話がしたいと思った
- ・リハビリの方に助言を求めることが出来ると思った
- ・研修会への出席や横のつながりを大事にして小児の在宅医療に貢献したい

#### ③自分の職種での応用や参考になる

- ・現状を知り、どのような介入をしたら良いのか考えるに当たり良い勉強になった
- ・小児への関わり方など、遊びの中でのリハビリなど実践していきたい
- ・現在の訪問先は重症児が多いので研修内容を実践するには難しいが、応用していきたい
- ・STさんのお話はとても興味深かった。実践してみたい
- ・STの実施のリハビリなどを参考にしたい
- ・小児にとって日常のささやかなことが成長にとっても深く関わっていると感じた。自分の職種（ヘルパー）の中で何がしてあげられるか考えたい

#### ④担当している小児の見方が変わる（広がる）

- ・多角的に小児を見ることができると思う
- ・子どもの好きなものを使って次の行動を促していきたい

<訪問リハビリに興味を持った>

- ・今日の研修会をきっかけに訪問リハにとっても興味を持った。今後、訪問リハ関連の研修会に積極的に参加したい
- ・小児の訪問リハを初めて知った。標準的な発達が大切だと改めて思った
- ・今まで小児事例に関わったことがなかったので、導入としての位置づけには大変参考になった

<小児事例の評価の視点を学べた>

- ・子どもを見るときの評価の視点がわかった
- ・実施の訓練場面で活用したい、特に嚥下方法は生かせる
- ・小児麻痺の後に二次的障害で入院する利用者をフォローするために、本日得た知識を生かしていきたい

#### 【第4回：在宅療養児(者)のレスパイトケア～重症心身障害児・者の短期入所の実態～】

##### 1) 参加理由

＜小児在宅医療などに関する知識を深めたい＞

- ・小児在宅医療や短期入所施設の実態、知識を深めたい
- ・小児看護の知識不足の為
- ・小児とのかかわりが少ないので具体的なイメージを持ちたい
- ・実際の児の生活する場や使える制度などを知りたい

＜レスパイトに関する知識を持ち、家族に情報を提供したい＞

- ・在宅レスパイトに興味・関心があり、その現状を知りたい
- ・レスパイトが難しい（予約がとれない）と聞いたので、その実際を知りたい
- ・担当する子どもにレスパイト利用が増加してきたので興味があり、参加した
- ・レスパイトの実際を知り、利用している利用家族へ情報提供したい
- ・現在、在宅レスパイトを行っているので、東部療育センターの状況を知りたい

＜重症心身障害児の在宅療養に関する知識を深めたい＞

- ・重症心身障害児の短期・長期の入所環境について詳しく知るため
- ・重症心身障害児の在宅療養に興味がある

##### 2) 研修内容の満足度とその理由

|   |
|---|
| 大変良い 60%、良い 35.7%、普通 0、あまり良くない 0、改善の余地あり 0、無回答 4.3% |
|---|

—理由—

＜わかりやすい説明でレスパイトの現状や課題が理解できた＞

- ・写真やデータでレスパイトの様子を知ることが出来、わかりやすくイメージ化出来た
- ・看護の状況や制度の限界や課題など多岐にわたる内容で参考になった
- ・短期入所の課題や背景を説明して頂き、施設の少なさが理解できた

＜東部療育センターにおけるレスパイトケアの実際が理解できた＞

- ・東部療育センターでのケア内容や現在の動向を知ることが出来
- ・東部療育センターを一度見学してみたい
- ・東部療育センターに短期入所した利用者がどのように過ごしているのか理解できた

＜レスパイト中の子どもに生じる身体的変化を理解することが出来た＞

- ・レスパイト中に体調や生活ペースが崩れると家族から聞くことも多くあり、その要因や背景を理解することができた
- ・短期入所時の体調変化の実態がわかり、それを理解した上で最善を尽くすこと、家族に説明することが大事だと思った
- ・短期入所によって生じる子どもの身体変化（発熱など）がデータをもとに説明されて興味深かった
- ・環境の変化が与える重症児への影響を知り、十分な配慮が必要だと思った



＜利用者家族の話から現場の状況を聞くことが出来た＞

- ・入所時の様子をそれぞれの立場で聞くことが出来て参考になった
- ・短期・長期入所の希望者がいた場合の対応の参考になった
- ・レスパイトを行っている施設や必要としている家族の声が聞けた

### 3) 研修内容活用の可能性について

＜レスパイトに関する利用者家族の思いを理解でき、ケアに生かせる＞

- ・東部療育センターのレスパイト利用方法や理念を知ること、同じ思いをもって利用者家族に接することが出来る
- ・家族の不安を少しでも緩和できるように自分の知識を増やしたい
- ・状況を知ること、短期入所終了後の利用者のケアにつなげていくことが出来る
- ・短期・長期の利用者訪問の際の参考になった
- ・短期入所に関して、訪問する家庭の母親からの意見だけでなく医療者の視点を知り、新たな視点で利用者を理解することが出来る
- ・重症児の方の特徴を教えて頂き、日々の業務における利用者理解につながる
- ・状況を知ること短期入所終了後のケアにつなげていきたい

＜レスパイトを利用する家族に情報提供や説明ができる＞

- ・在宅ケアサービスの対象である利用者に対して、レスパイトの説明と紹介ができる
- ・社会資源の一つとして紹介できる
- ・小児利用者が増加しているので、家族へ行く社会資源の提供に生かしたい
- ・利用者との情報交換ができる
- ・レスパイトを希望する方たちの相談に少しは乗ることが出来る
- ・児の家族の不安を少しでも緩和できるように今後も知識を増やしていきたい

## 【第5回：在宅療養児の家族ケア～家族の声を聴こう～】

### 1) 参加理由

＜家族の生の声を聴きたい＞

- ・家族の生の声を聴きたい、家族の思いを知りたい
- ・小児に関わる仕事をしているので、家族の話を聞きたい
- ・小児と関わったことがないので、実態を知りたい
- ・普段ゆっくりと聞けない家族の本心や望まれる支援・取り組みを知りたい
- ・小児看護の経験はあるが、在宅療養児の状況を知りたい
- ・小児の訪問看護を行う上で勉強になる、事例に触れた
- ・小児の在宅療養に関するサービスは少ないので、家族はどんなサービスを望んでいるのか知りたい

### 2) 研修内容の満足度のその理由

大変良い 97.5%、良い 0.5%、普通 0、あまり良くない 0、改善の余地あり 0

—理由—

<家族の生の声を聴いて感動した、考えた>

- ・在宅療養児に対する家族の思いや取り組みに感動した
- ・「周囲の認知や理解を広げて欲しい」「自宅を見に来てほしい」など、家族の声を実感する研修会であった
- ・実際に家族から話を聴く事が出来て勉強になった
- ・障害児出生後の母親の精神的変化を知ることができた
- ・父親の思いを改めて知る、とても良い機会であった
- ・訪問しているだけではわからない家族の本音が聴けて考えさせられた
- ・仕事では家族の生の声を聴く機会が少ないので、現場の声を聴くことが出来て参考になった
- ・家族が抱える悩みや希望・励みを少しでも理解することが出来た

<家族支援について考えさせられた>

- ・訪問時に元気よく対応してくださる家族だが、その背景にある思いを受け止めていくことの大切さを感じた
- ・慣れない小児の訪問に不安はあるが、それ以上に支えることが出来るようになりたいと思った
- ・家族内に複数の障害児がいても、家族が希望する生活が送れるような支援を考えたい
- ・在宅療養児が親と離れる時間（レスパイト）も大切なのだと思った
- ・「人」としての関わりが大切だと感じた

<家族支援に関する問題や課題がみえた>

- ・家族支援を行う上での問題や課題が見えた
- ・自分が感じていた以上に在宅療養児の家族の思いは切実であり、課題・問題点・改善点が見えた
- ・まだまだ自分の力が足りない至らぬことを思い知り、勉強する必要があると感じた
- ・利用できるサービスを自分でも勉強して支援に生かしたい
- ・訪問看護師として引き出しをたくさん作り、柔軟な思考ができるようになりたい
- ・これまでの小児の訪問看護を振り返ることができた
- ・ヘルパーとしての役割、知識を高めていきたいと感じた
- ・もっと子どもに関わる環境面に目を向けた
- ・家族の気持ちや考えている事、希望する事を知ることが出来たのでリハビリ職として生かしていった
- ・小児在宅の現状やまだ整っていないところでの家族の思いを知り、小児在宅医療のあり方を改めて考える機会となった

3) 研修内容活用の可能性について

<小児の訪問看護・介護に取り組んでいきたい>

- ・今後も小児の訪問に関わり、ほかの事業所にも伝えていきたい
  - ・今はまだないが、小児の訪問看護の依頼があったときに研修内容を生かしたい
  - ・小児と関わることを恐れない事業所になれると良い
  - ・在宅での小児のケアはどのようにしたら良いのか、具体的に理解していきたい
- <家族支援に取り組んでいきたい>
- ・家族が思っていることに耳を傾けてもっと深い関わりをしていきたい
  - ・家族を楽しくサポートしていけるように。自分の気持ちに余裕を持って支えたい
  - ・在宅療養生活上の家族の目標を聴取もしくは構築できるような関わりをしたい
  - ・面とって言いにくいことも含めて家族の気持ちを知る機会は、今後の仕事に役に立つ
  - ・家族の立場に立ち、家族が必要とすることを考えたい
  - ・それぞれの家族の話に共感し、少しでも自分が役に立ちたいと思う
  - ・訪問看護では小児だけに目がいってしまうが、その家族に対して何が出来るのかももう一度考えたい
  - ・保護者の気持ちにきちんと向き合っていこうと改めて思った
  - ・家族の心情をくみ取り、良質かつ意義のあるリハビリを提供していきたい
- <社会資源について考えたい、学習したい>
- ・信頼関係を築ければ安心して在宅レスパイトを受けられ、家族の負担を減らせるのではないかと考えた
  - ・制度改革など自分に出来ることがあれば声をあげていきたい。行政へプッシュする必要性を感じた
  - ・事務所運営の充実や土日の確保など、もっと制度の活用などを学ぶ必要性を感じた
  - ・制度の使い方を、家族にできるだけわかりやすく説明していきたい
- <自分の仕事を見直したい、向上させたい>
- ・家族の気持ちを考え、押し付けのような看護にならないようにしたい
  - ・訪問看護師のスキルアップや家族との信頼関係の構築などを行い、在宅レスパイトを可能にしていきたい
  - ・訪問看護ステーションの限られた人数で、必要とされていることをどれだけフォロー出来るか考えたい
  - ・特別支援学校に勤務する訪問ヘルパーであるが、学校への入学に関することを家族と一緒に考えて寄り添っていきたい
  - ・ヘルパーとして当たり前の仕事をしていたが、もっと深く支援する必要性がある
  - ・ヘルパーが出来る生活支援がどれだけ家族のために出来るのか考えたい
  - ・家族にヘルパーを育ててもらうためのアプローチが必要だ
  - ・安心して小児と家族が在宅医療を受けられるようになりたいと思った
  - ・家族と同じ目標をもって仕事できるようになりたい
  - ・今後も引き続き研修会に参加して小児在宅医療について学んでいきたい

- ・小児在宅医療に関わる上で、自分に足りない知識が明確になった

### 3. まとめ

江東区医師会では、平成26年度より医師会地域福祉部に「小児在宅医療推進委員会」が新設された。本委員会のメンバーは江東区医師会所属の小児科医師だけでなく、周産期医療の拠点病院である東京都立墨東病院の小児科医師や地域連携部の事務職、江東区内で小児の訪問看護に従事する看護師や江東区役所の保健師などにも参加を求め、小児在宅医療における地域連携事業に取り組むこととなった。この事業の中心は「小児在宅医療推進のための研修会」であるが、当初は江東区内の訪問看護師や開業医を対象とした在宅療養児の医療的ケアに関するテーマ（小児在宅における人工呼吸器の管理、小児在宅における医療処置と対応、呼吸の仕組みと気管内吸引）を取り上げていた。しかし小児在宅医療を具体的に推進するためには、医療職ばかりでなく介護職や在宅療養児に関わる様々な職種の連携が必要不可欠であることから、勇美記念財団の在宅医療助成を受けて多職種合同の幅広いテーマで研修会を開催する運びとなった。

また、多くの人達に本研修会に関心を持ってもらう為に、広報活動は江東区内だけでなく墨田区・中央区・江戸川区といった城東4区の介護事業所等にも行った。そのため、毎回の研修会開催時刻が18時30分～20時という遅い時間帯にも関わらず、参加人数は平均50人程度を見込めるようになって来た。参加者の中には毎回の研修会を心待ちにするリピーターが出現したり、研修会終了後に各職種間で情報交換や名刺交換する場面がしばしば見られるようになって来た。また、後半（4回、5回）の研修会では、実際に訪問看護や訪問介護サービスを受けている在宅療養児のご家族の参加や発言もあった為か、質疑応答の時間が徐々に活発になって行き、研修会に参加した様々な職種の人達が、「在宅療養している子どもと家族のために何か役に立ちたい」と口にするようになって来たのは、本研修会開催の大きな意義であったと振り返る。

そして4回目と5回目の研修会終了後に、今後希望する研修会のテーマを参加者に尋ねたところ、「次年度も多職種交流の場や研修会を開催して欲しい」「家族をエンパワメントするケアの具体例を知りたい」「家族の話を聴くような研修会は引き続き行ってほしい」「医療的ケアの手技に関する研修会を希望する」「小児在宅医療を取り巻く支援体制など、家族が使える制度（社会資源）の研修会を開催してほしい」「小児在宅医療に少しでも関心を持つヘルパーを増やすために、ヘルパー対象、または利用者対象の研修会を希望する」と言うような意見が寄せられた。この意見を参考にしながら次年度も多くの人達に関心を持ってもらえるように多職種合同研修会を開催し、小児在宅医療推進事業を継続していきたいと考えている。

最後になりましたが、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団により助成を受け、無事に2016年度の小児訪問看護及び介護事業推進のための多職種合同研修会を終了することが出来た事に感謝します。